

英語俳句歴 17年を振り返って (1)

認知症予防を期待して英語俳句クラブ「目黒国際俳句の集い」に入会して以来、20年近い歳月が流れました。毎月2句を投句してきましたので、すでに400句前後もの英語俳句を詠んだこととなります。ところが、皆さんから特に評価をいただくことは極めて稀で、私自身も作句力不足を痛感し、入会当時の“一初心者意識”が大きく残っております。お陰で、現在も初心者のような新鮮な気持ちで、作句を楽しんでおります。

下記は、最近の拙句で、郷里の秋の夜を思い出して詠みました：

moon-lit gardens

crickets singing merrily in trees

—one Japanese autumn night

(和訳： 月明かりの庭 樹々からは

賑やかな虫の声 日本のある秋の夜)

英語俳句の作り方を紹介している The Japan Times の資料などでは、その概要が次のように示されております：

「英語の正規の文法や語法に、あまり拘らず、現在の現象や心境を、カメラに納める感じで、3行の英文で表現する」

もう少し、具体例を追加しますと：

①現在形で記述 ②3行の長さは、音節で2－3－2程度が望ましい（日本俳句は、文字で5－7－5）③“I（私）”は使わない。④be動詞、冠詞、前置詞は省略可能。⑤季節感を含ませる。（季語はない）

10年ほど前のことですが、英語俳句のベテランの方に、私の作品への率直な感想をお願いしたところ、次のような指摘をいただきました：

「英語の文章としては、まあ、これでも良いでしょう。問題は、“説明的記述が多すぎ、字数も多すぎて”詩感”に欠けることです。“俳句は詩”ですよ。読んだ人がイメージネーションを膨らまし、いろいろと推察したり感動したりする効果が期待されています。失礼ながら、貴方の句は、機械類の英文取扱い説明書の表題のような感じですか。それと、使用される英語の語彙も、俳句向きのものを選ぶよう工夫されては？」

なるほど、私の英語（ドイツ語も）は、その相当な部分が私の専門技術分野に関連して会得したもので、無機的、非心情的な語法・語彙に偏っておりました。以来、詩感的発想の強化と語法・語彙のネーティブ・スピーカー的多様性への接近という大目標に挑戦しております。

昨秋、珍しく好評をいただいたのが、下記です：

old song —

bringing me back to autumn leaves

surrounding Lake Towada

(和訳； 懐メロ聴き 思い出す 十和田湖畔の あの紅葉)

(続く)

(注)「目黒国際俳句の集い」問い合わせ先；

代表者；小金井康臣（氏） Email: yix04102@nifty.com

英語俳句歴17年を振り返って（2）

最近、俳句は世界各国で注目を集めております“俳句”の国際的な呼び方は、一般にローマ字で”Haiku”あるいは”Haiku poem”と呼ばれ、中国語では”漢俳”と呼ばれております。

日本生まれのこの”世界最短形式の詩”は、詩としてあまりにも短いため、これまで欧米などでは、所謂”正規の文芸作品”から少し格下の”準文芸作品”として扱われてきたようです。しかし近年、俳句の愛好者の海外での増加で、文芸としてのステータスも上昇している模様です。

海外で最初に俳句に取り組んだ国は、フランスかと思われます。1920年代のフランスには、すでに相当数の俳句愛好家がいたと言われております。この背景には、詩人、劇作家、そして外交官で、1920年代に駐日大使も務められたポール・クローデル(1868～1955)氏の影響が大きいと思われます。氏は、俳句に格別の文芸的意義を見出し、日・佛両語で著書”俳諧的詩集”を執筆し出版されております。

フランスでの俳句の人気は、今も続いているそうです。そういえば、シャンソンの歌詞などに、なんとなく俳句と共通する”詩情”を感じる日本人は少なくないと思います。

ところで、海外で英語俳句が詠まれ始めたのは、明治開国直後と予想しましたが、実は第二次世界大戦直後であることが判りました。

英語俳句の場合も、その国際的普及に格別の貢献を果たされた功労者がおられます。大戦前、英語教師として英国から来日の文学者・レジナルド・ブライス先生(1898～1964)で、日本文化への深い愛着と理解を背景に、1949年著書”俳句Haiku”の第1巻を、続いて第4巻までを執筆されております。

上記の歴史的な経緯も含め、私の20年近くの英語俳句との触れ合いから、英語俳句の効用・期待・課題を総括しますと：

- ① アルツハイマー予防効果への期待も含め、私の当初からの目標である”外国語で考える機会”は、十分確保できた。
- ② 英語が世界最大の言語人口を持つことは、英語俳句の格別高い国際流通性につながるもので、今後の成長が期待できる。

(参考) 世界人口73億人のときの英語常用人口： 15億人

内訳：英語国人口 3.8億人 他国での英語常用人口 11.2億人

- ③ 英語は、教育制度を含めた過去の歴史的経過から、日本で流通度の高い唯一の外国語であり、さらに流通度上昇が期待できる。
- ④ 残念ながら、日本国内での現在の”英語俳句の周知度”は高くない。学生諸君を含めた若年層への積極的な”広報活動”が望ましい。
- ⑤ 筆者個人の最重要課題は、今後とも特に”英語での表現力”である。

2023年正月、下記を「目黒国際俳句の集い」に投句しました：

New Year's ambitions / English, enthusiasm, inspiration

/ for my haiku (和訳： 英語俳句への新年のわが野望 英語力、情熱、ヒラメキ)

英語俳句歴 17 年を振り返って (3)

近年の春・夏に、“目黒国際俳句の集い”に発表しました拙句の極一部を、以下に例示します。次回に秋・冬の作品を取り上げますが、いずれの句にも和訳文(*)、一部には背景説明等(**)を付記します：

spring coming / people waiting for cherry blossoms / COVID to wither away

* 春近し 桜は歓迎 コロナ禍は失せろ

** 新型コロナ禍来襲時の大混乱の春の感想である。

booklet from family temple / “you could live for others” / new lease on life

* 菩提寺から小冊子 “人々のために生きるがいい” 元気復活

cherry-blossom front / arriving unusually early this year / COVID-vaccine delaying

* 桜前線、今年は異常に早く到来 コロナ・ワクチンは遅れ気味

hazy moon / peacefully in spring night sky / ignoring pandemic

* おぼろ月 春の夜空で しとやかに コロナ禍など知らぬ顔

too long stay-home / too few creating chances / for better haiku

* 長引く巣ごもり 良句につながる 機会乏しく

** やはり、良い俳句を詠むためには、創句の”引き金”として、多彩な環境に接することが不可欠であることを実感した。

what a relief ! / dead-looking maple in our yard / explosively sprouting

* やれやれ大安心 枯れたと見えた庭の楓 突然新芽吹き出る

rainy season midnight / writing condolences on my close colleague / missing good old days

* 梅雨の夜半 楽しかった日々振り返り 元同僚への弔辞書く

** 戦後、“欧米の技術に、追いつけ追い越せ”と、共に頑張った 研究開発職場の”戦友”が 急逝。せめて最後に昔の思い出など 語り合いたかった。 合掌

my favorite fruits / annual gifts from our sons / Father's Day

* 今年も 大好物の果物が 息子たちから 父の日に

deepest gratitude / for special August to me / turning 90

* 心からの感謝を この8月(2021年)で 卒寿に到達

** 大きい慶びの一方で、すでに他界の友人、後輩諸氏のこと、蓄積したさまざまな後悔の思い、等々。心境は甚だ複雑である。

英語俳句歴17年を振り返って（4）

近年の秋・冬に“目黒国際俳句の集い”に発表しました拙句のごく一部を、和訳文（*）とともに下記します。背景説明等（**）も一部の句には付記しました。

on-line international meetings / easily connecting my home to Europe or USA
/ missing frequent trips abroad

* インターネットで国際会議 / わが家と欧・米、簡単につながる / あの頻繁な海外出張が懐かしい

** 筆者在職時代の欧米での国際会議への参加は、大仕事であった。事前の諸準備、航空機による長時間の渡航など。しかし、海外有力専門家との直接面談の機会、開催地（主要都市、景勝地など）滞在による見聞の拡大などの効用は大変貴重であった。

writing book reviews / autumn breeze coming through / sunny windows

* 好天の心地よい秋風受けて 書評書く

** 10余年前から、専門誌「エネルギーレビュー」に毎年2～3篇の書評を執筆できたことに感謝したい。

Japan now wavering / between more economy and less pandemic / what a hard choice !

* 景気浮揚か コロナ対策か 選択の悩みは深し 日本の政治

karaoke party reopened / after long break against pandemic / masked singers look happy

* コロナ対策で 長期休会のカラオケ会を再開 マスクしながらも嬉しそうな参加者各位
shortened spring and autumn / like intermissions between summer and winter/
Japan's season new normal

* まるで夏と冬の幕間のように 春と秋が短くなった これがこれからの日本の四季だ

Christmas shopping / silent short greeters at every store / hand-sanitizing bottles

* クリスマスの商店街 どの店にも小さな無言の出迎え人 手指消毒剤の薬瓶たち

lasting pleasures with little progress / suitable pastime for 100-year-life era / my English haiku

* 上達は遅いが 楽しさはいつまでも続く これぞ “人生100年時代” 向きの趣味
私の英語俳句